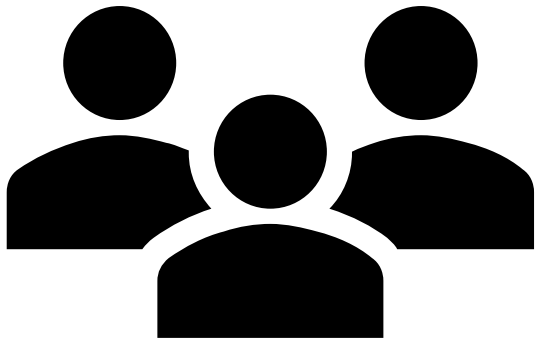


起こり得るハラスメント

～ 無意識のうちに加害者にならないために ～

【個人編】

あなたの考える・・・「普通」「当然」
誰かを傷つけることはありませんか？



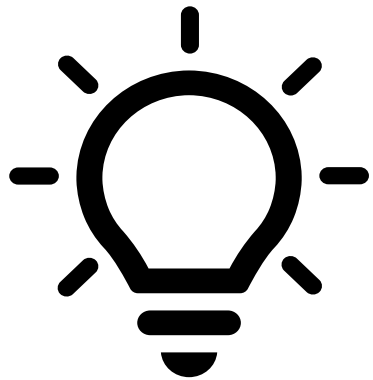
この資料は、チーム役員、指導者、保護者、そして連盟の役員、審判員など、すべての関係者が自身の行動を振り返り、考える機会として頂くための資料です。

公益財団法人 全日本軟式野球連盟

人を傷つける行為は全て禁止です

殴る、蹴るなどの身体的な攻撃だけではなく、ののしり、罵声などの言葉による攻撃、話を聞かない、無視などの態度による攻撃、正当な理由が無い「排除」や「拘束」なども身体的な攻撃と同じように人を傷つける行為です。

考え方の変換が必要です。

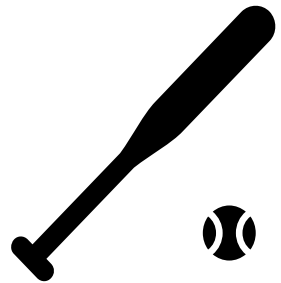


身体的な攻撃以外のハラスメントについては、比較的近年、世間で認知され始めました。報道等で頻繁に耳にして「そういう時代なんだ」と理解しているつもりでも、自身の行動と結びつかない事も多いと思います。しかし、時代に関係なく本来、人を傷つける全ての行為は否定されなければなりません。

チームスポーツで起きやすいハラスメント

【チーム内で起こりやすいハラスメント】

指導者⇒競技者



①指導的な立場の人が自分の方針を「絶対」と信じるのは普通のことです。

そのぐらいの信念がなければ指導はできないでしょうし、受ける方も考えが揺らいでいる人から教わっても不安なだけです。

しかし、その**信念をただ押し付け、ついて来られない人に対してきつく叱ったり罵声を浴びせたりするのは間違いです。**

何故この練習をするのか、どうして必要なのかを教えるのも指導。出来ない人はどうして出来ないのか、何か分からないことがあるのか、など本人の立場で考え、導いていくことが指導です。

チームスポーツで起きやすいハラスメント

【チーム内で起こりやすいハラスメント】

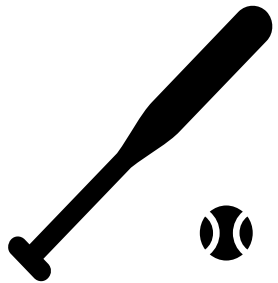
指導者⇒競技者

②指導者の方は選手を「導く」存在です。

スポーツの意味は、試合の運び方や様々な作戦を実行できるようになる練習、鍛錬をすることも重要ですが、競技の楽しさ、努力の意味、頑張っても全員が同じようにできる事ではない厳しさや現実、その中で自分にできる役割を探し挑戦することを体感することにあります。

選手が試合で失敗した時、指導者は「何故失敗したか考えること」「次はどうするかを考えること」を教え、導くのです。

叱りつけ、罰を与えるなどの行為は、「自分の思い通り」に出来ないという、指導者の一方的な立場からでしか考えていないために起こるハラスメントです。



チームスポーツで起きやすいハラスメント

【チーム内で起こりやすいハラスメント】

指導者・チーム役員など⇒競技者・保護者など

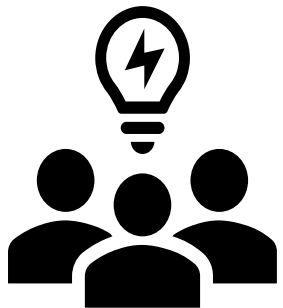
③人には「相性」があります。

指導者であっても選手の全員、また関係者の全員に平等に同じように接することが出来るとは思えません。合う人、合わない人が居るのは当然なのです。

しかし、**指導者やチームをまとめる立場の人があからさまな態度で接すると、チーム内でのいじめに繋がる可能性があり、ハラスメントに該当します。**

結果、「嫌われたくない」一心でチーム内の間違っただけの事に対して意見を言う人も居なくなってしまい、間違えた方向を早期に修正できなくなってしまいます。

何か意見を言う人を排除しようとすることは重大なハラスメントです。



チームスポーツで起きやすいハラスメント

【チーム内で起こりやすいハラスメント】

「拘束」や「移籍の妨害」もハラスメントです

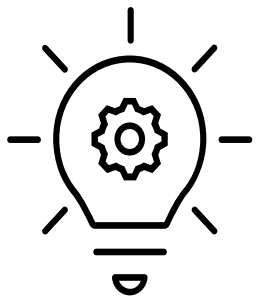
- ④どうしてもチームに馴染めない、指導者との相性も悪い、ハラスメントを感じる、ということでチームを移籍することを考える場合も多いと思います。

連盟規程第10条4項で、チームに異動があった場合には届け出が必要であり、更にその年度は他のチームへの登録が出来ない事を定めています。この規定は、元々チームを渡り歩くようなことを許さない規定です。トラブルが原因でチームに残るのが気まずく、難しい状況となった場合は例外と言えます。所属の支部等へ事情をよく説明し、スムーズに移籍できるようにするべきです。

無理やり拘束する、移籍を許さない＝悪質なハラスメントです。

本来、軟式野球を楽しんで欲しいという気持ちのはずです。

今のチームに馴染めないのであれば別のチームで何とか楽しんでもらいたい、と思えば何も問題は起こりません。**考えを変えましょう。**



チームスポーツで起きやすいハラスメント

【チーム内で起こりやすいハラスメント】

二重のハラスメントになる事を認識する必要があります



⑤個々の疑問や意見を取り合ってもらえない、チーム内の無言の圧力で意見を言えない、移籍も許されないなどの場合、連盟の通報窓口を通じた通報があります。

殆どの通報が、チーム内でコミュニケーションがしっかりとれていれば内部で解決できるはずの事案です。匿名を強く希望されることが多いのも内部の風通しの悪さを象徴していると言えます。 **内部の圧力＝ハラスメント** です。

特に、子供を預けている状態の少年野球では通報が分かると、子供が嫌がらせなどにより野球を続けられなくなるという心配が根底に強くあると感じます。

通報者へのペナルティ、嫌がらせ＝二重のハラスメント です。

チームスポーツで起きやすいハラスメント

【チーム内で起こりやすいハラスメント】

無かったことにはなりません



- ⑥たとえ悪気が無かった行為でも、「強い圧力」を感じた、そのことに傷ついた人がいたとしたら「悪気は無かったんだから」で終わらせることはできないのです。
- 事実は、ゴミのように丸めて捨ててしまうことは出来ないのです。
- ハラスメント行為の最大の問題は、やっている方（加害者）とやられている方（被害者）の認識が大きく違う、ずれているということです。
- 大半の事案、加害者は悪気があった訳では無いから大したことではないと思っています。
- 人はそれぞれ、感じ方や受け取り方が違います。

無かったことにしようとする態度や行動が一層被害者を傷つけることになるのです。

楽しくスポーツを楽しむために



軟式野球のチームは、指導者などの熱意によるボランティア精神に支えられているのが現状です。

そして、チーム入る選手は純粋に野球を楽しみたい、やってみたい、上手くなりたいという思いで集まって来ているはずです。

熱心な指導のつもりが相手を追い詰め、選手達が野球を楽しめなくなったら・・・それは本意でしょうか？

選手には皆違う個性があり、指導者の代わりに野球をやるわけではありません。例え自身の子供であっても、親の夢を投影し、押し付けて強制したりすることは許されないのです。

皆が楽しく軟式野球を楽しむために。